

# うみつばめ



## 基本理念

私たちは、地域の中核病院として、住民の立場にたち住民の健康、福祉、安全の向上に貢献します。

## 基本方針

1. 私たちは、患者さまの心（心身）の痛みに関心し、やさしさと思いやりのある医療を目指します。
2. 患者さまの医学的情報について、十分な説明を行い、理解と納得に基づいた医療の実践を行うとともに、個人情報の保護に努めます。
3. すべての職員が連携して、患者さまの満足と信頼が得られる医療の実践に努めます。
4. つねに医療の安全に関する知識と技術の向上に努めます。
5. 地域の医療、保健、福祉、介護との連携強化に努め、地域に開かれた病院を目指します。
6. つねにコスト意識をもって業務の効率化と能率化を図り、健全運営に必要な財政基盤確保に努めます。

# 病院事業管理者就任のご挨拶

くしもと町立病院  
病院事業管理者

しろたに まなぶ  
城谷 学



## 略歴

1990年—1992年	京都大学医学部附属病院第3内科 医員
1992年7月 — 1994年9月	Austin Hospital, Melbourne, Australia, Cardiology Department clinical fellow
1994年10月 — 1999年7月	静岡県立総合病院循環器科医長
1999年8月 — 2008年3月	近畿大学医学部奈良病院循環器内科准教授
2008年4月 — 2023年3月	近畿大学医学部奈良病院循環器内科診療部長 兼 教授
2018年4月 — 2021年3月	近畿大学奈良病院病院長
2021年4月 — 2023年3月	近畿大学奈良病院顧問

このたび、串本町病院事業管理者に就任しました城谷 学と申します。3月まで近畿大学奈良病院で約24年、循環器内科医として勤務し、心臓病治療に従事しておりました。

日本では今後高齢化が進むと考えられています。加齢とともに運動量が減ると筋力は衰え、食欲低下からフレイルになると考えられています。フレイルは、心身の活力低下を起し介護の必要性が高まっていく状態です。認知機能の低下を伴うことも少なくありません。結果として誤嚥性肺炎、心不全、脳梗塞や骨折が多数発生すると予想されます。いずれも長期の入院、臥床の必要性から、フレイルを招きやすい病気です。くしもと町立病院は急性期病床のみならず、在宅医療に移行する（介護依存度を高めない）ための地域包括ケア、療養病床も兼ね備えた病院です。医療動向も念頭に行政と連携しながら、栄養管理やリハビリテーションを含め、多職種の医療スタッフが一元となって皆様の健康と活力の回復・維持に取り組み、日々の充実をご支援したいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

救急医療を“断らない病院”、一旦入院となったら“面倒見のいい病院”を目指したいと存じますので、ご理解・ご支援のほどよろしくお願いいたします。

2023年4月  
串本町病院事業管理者  
城谷 学  
しろたに まなぶ

当院の4階には、療養病棟と介護医療院（Ⅰ型）が併設されています。療養病棟は、急性期の治療が終わり、医療の必要性の高い長期療養を必要とする患者さまが対象で、医療的処置を行います。介護医療院（Ⅰ型）は、病状は安定しているものの長期間に渡って療養が必要な方が対象で、また、介護認定（要介護1～5）を受けている方が対象となります。



レクリエーションルーム



室内（2人部屋）



ひだまりコーナー

### 【療養病棟と介護医療院（Ⅰ型）の比較】

	療養病棟	介護医療院
保険	医療保険を利用	介護保険を利用
提供サービス	医療・リハビリ・介護	医療・リハビリ・介護・生活支援
対象者	<ul style="list-style-type: none"> <li>急性期の治療は終了したが、→長期療養が必要な患者</li> <li>→自宅へ戻るには不安が残る慢性期の患者</li> <li>医療区分2・3が中心</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護認定（要介護1～5）を受けた要介護者</li> <li>日常的な医学管理（たん吸引や経管栄養等）が必要な利用者</li> <li>医療区分1が中心</li> </ul>
特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>長期療養を目的とし入院する場所</li> <li>24時間の看取り・ターミナルケア</li> <li>当直体制（夜間・休日）</li> <li>おむつ代は自己負担</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>要介護者の人が生活する場所</li> <li>24時間の看取り・ターミナルケア・在宅復帰</li> <li>当直体制（夜間・休日）</li> <li>おむつ・薬代は施設サービス費に含まれる</li> </ul>
入院（入所）の流れ	急性期病棟からの転棟	入所申込書提出後、入所判定会議の結果

※医療区分とは：厚生労働省が定めた患者の医療の必要性を評価するための指標。3つの区分があり、医療区分3が最も重い疾患・状態。医療区分2・3に該当しない場合は、医療区分1とする。

### お花見会

当院では、職員で考えた四季折々の行事を開催しています。今年度初めてとなるお花見会では、プランターに咲いているお花の鑑賞と春の陽気を感じていただくため中庭に出かけました。身だしなみを整え、おしゃれな格好で外出すると、何だか楽しい気分になり、新鮮な空気に触れることで自然と身体が動き笑顔になりました。病棟のテイルームに戻り、みんなでおやつを食べた際には、職員の「やっぱり花より団子やね」の声にさらに大笑い。あっという間のひとときでした。今後は地域住民やボランティアとの交流を行い、地域に開かれた施設を目指していきます。



【文責：看護部 荻野 貴】

# 意外と知らない！？動きの“コツ”



人は、年を取るにつれて少しずつ動きづらくなっていきます。怪我をしたり、関節が変形したり、痛みが出てきたりと、心当たりのある方も多いのではないのでしょうか。

今回は、日々の暮らしの中で当たり前に行っている動作に焦点を当てて、できるだけ楽に・安全に動くことのできる“コツ”を紹介します。



## ●杖歩行 ⇒ 杖は悪い足と反対の手で持つ

利き手で杖を持っている方が多いと思いますが、痛い足や動かしづらい足と反対の手で杖を持つことで、しっかりと足を支えることができます。杖をついていると、ついつい足元を見てしまいがちですが、前のめりになってしまい転倒の危険性が高まるため、できるだけ顔をあげて前方を見るようにしましょう。



## ●階段（段差） ⇒ 昇る時は良い足から、降りる時は悪い足から

階段や段差を昇る時は良い足から、降りる時は悪い足から足を出し、一段ずつ両足を揃えて昇り降りすると、弱い足を支える事ができます。覚えにくい方は、童謡「通りゃんせ」の「行きはよいよい（良い） 帰りはこわい（悪い）」で覚えてみてください。階段や段差は転倒のリスクが高いため、手すりがある場合はしっかりと手すりを把持することも大切です。



## ●立ち上がり ⇒ 浅く座って足を引き、体を前に倒しながら立つ

立ち上がりが苦手という方の多くは、体を前に倒す動きが少ない場合がほとんどです。しっかりと足を引き、お辞儀をするように体を前に倒して立ち上がることで、重心移動を利用しながら楽に立ち上がることができます。立ち上がりの介助をする際も、このルールを意識しながら介助することで、介護者の負担を減らすことができます。



リハビリテーション部では、このような動きの“コツ”を覚えてもらいながら、日々患者さまと動く練習をしています。ご家庭でも自身の動き方を見直し、また、ご家族の介助をする際の参考にしてはいかがでしょうか。

【文責：リハビリテーション部 下橋 美里】



入院中の患者様の下に、薬の説明に何うと「病院の前の薬局さんかい?」とよく言われます。病院薬剤師は町の調剤薬局とは別で、調剤の他にも色々な仕事をしています。

当院での主な仕事内容

【調剤業務】

錠剤、外用剤など処方せんに記載されているお薬を用法・用量の他、併用禁忌や重複投与などを確認し、作ります。

【退院時服薬指導】

入院患者様が退院される際、ご本人もしくはご家族様等にお薬の説明をさせていただきます。

【がん化学療法】

治療計画書をチェックし、患者様の身長及び体重から投与量を確認します。抗がん剤を薬剤師が無菌的に調製します。

【医薬品管理】

病院内で使用する、ほぼ全ての医薬品の購入、適正在庫、供給、品質管理を行います。

【注射調剤業務】

入院患者様が翌日に使用する注射を取り揃えます。投与量、投与速度、投与経路、投与間隔、配合変化などを確認します。

【医薬情報管理】

医療スタッフからの質問に回答します。医薬品情報の収集・管理・発信を行います。

【持参薬鑑別】

入院及び外来で、お薬手帳や紹介状、持参薬から患者様が服用されているお薬を調べます。

【病棟薬剤業務】

医師に処方切れを連絡し、採用がないお薬は代替薬を提案します。入院患者様への配薬準備を行います。退院時、お持ち帰り頂くお薬をわかりやすくまとめます。

【チーム医療への参加】

- ・ICT(感染対策)
- ・NST(栄養サポート)
- ・糖尿病透析予防指導
- ・医療安全

2020年9月から開始した病棟薬剤業務は、南紀で唯一、当院で実施しています。

薬学生の実務実習も受け入れしており、当院では大抵の事が経験できます。

病院薬剤師の業務内容は多様化・複雑化しており、病院の規模や機能に応じて、各施設で必要な業務を実施しています。当院では薬剤師3名、医療助手1名と限られた人数で、上記の業務内容は、他施設と比べても遜色ないものと自負しています。

詳しい仕事内容は、病院ホームページの



をご覧ください。

当院では**薬剤師**を  
**募集**しております

※詳しくは、くしもと町立病院  
事務室までお問い合わせ下さい。



【文責：薬剤部 木下 乃江】

令和5年度

# 辞令交付式

4月3日(月)に令和5年度辞令交付式が執り行われました。  
くしもと町立病院では、医師を含めた10名の新入職員を迎え、新年度をスタートしました。



## 災害医療派遣チーム(DMAT)

くしもと町立病院は、令和5年2月24日に和歌山県ローカルDMAT指定医療機関として指定されました。現在、当院では医師1名、看護師2名、業務調整員2名が、ローカルDMATの資格を取得し、災害に備え日々の訓練や災害時の医療体制の強化に取り組んでいます。

県内における大規模災害発生時には、県の要請に基づいて現地に派遣され、被災現場での医療情報や伝達、被災地域の病院支援にあたります。

院内最高齢106歳  
おめでとうございます

河田よし子様

祝106歳お誕生回

おめでとうございます



### Information

全国共済農業協同組合連合会和歌山県本部様  
より車椅子をご寄贈いただきました。

院内で大切に使用させていただきます。  
ありがとうございました。

